

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500163		
法人名	株式会社ユーアイプラチナ		
事業所名	アイフロント神田		
所在地	池田市神田3丁目2-2		
自己評価作成日	平成29年1月25日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年2月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設、アイフロント神田の「その人の今を大切に！そして笑顔に！！」の理念を、スタッフ一同念頭に置き利用者さまの思いや、気持ちに寄り添ったケアを心がけています。利用者さまにとって、居心地がよく、施設においてご本人が必要とされているとの思いを持って頂けるよう、様々な事柄に協力を求め、実践を心がけています。常に細やかな気遣いや心配りが出来るよう、なおかつ、利用者さまもスタッフも、毎日笑顔で過ごすことをスローガンに、日々ケアをしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当社は2014年3月に新設され、事業主体は1991年から保険福祉事業、介護保険事業、障害者自立支援法事業等を展開してきた(株)ユーアイプラチナである。1ユニットの平屋建てで見通しが良く天井は梁を露出させ趣のある風情である。理念にある「笑顔」をモットーとして、職員がいつも笑顔で接すれば引いては利用者も安心して暮らせ笑顔になるとの思いで笑顔で優しく対応している。管理者の交替が昨年度末にあったが管理者は計画作成担当者と連携を密にして職員とのコミュニケーションを図り職員会議も実施する方針である。教育・研修等の充実を図り利用者の支援に反映させる事を期待する。入居者の介護度は軽く食事の下膳や排泄など自立している。散歩は毎日出かけられるように支援している。運営推進会議は利用者家族が参加しやすい土日に実施している為参加者も多く活発である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外において職員が研修を受講できる体制を整えられるように心がけています。当施設では、現在、おひとりの方が成年後見人制度を活用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に対し、重要事項説明書の内容を全てご説明し、確認をしていただいた上で契約を結んでいます。後にでも、不明点があれば、随時ご説明をさせていただきます旨お伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や、ご家族が来所されたときに利用者の様子をお伝えし、ご家族の希望や要望もお聞きし、ミーティング時にスタッフに伝え、情報の共有に心がける。	利用者と話し易い雰囲気を作り、何気ない会話から汲み取っている。家族の意見はサービス担当者会議や訪問時に伺っている。事業所からは「アイフロント神田お便り」を出し理解を深めてもらっている。運営推進会議での意見も速やかに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝9時の申し送り、毎夕のミーティングを行い気付きや意見を聞く時間を設け、ディスカッションしている。改善提案や良い意見はすぐに対応している。	日頃の業務の中や、朝夕のミーティングで、職員の意見や提案を聴くようにしている。実施例としてチャイルドロックやキッチンの柵について話し合いをもち反映している。今月から月1回の職員会議を設け、全員で意見を交わし前向きに取り組み運営に反映させる予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	去年6月の合併後も、代表との面談にて希望や目標等の聞き取りがあり、アドバイスや目標に向かっての支援がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修については、スタッフが一同に受講できなため、個別体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	池田市民間型事業所連絡会IGHIに所属し、3ヶ月に1回の会合に参加し、施設の事例や討論会を行い、他施設とディスカッションし、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、利用者様、ご家族と面談を行い、希望や要望、不安やお困りごとをお聞きし、お気持ちに寄り添い、当施設の事も、理解や納得をされるまで、何度でも話し合いの機会を設ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご家族に対し、興味・関心チェック表を用い、利用者さまの生活歴等をお聞きし、利用者さまが溶け込みやすいような環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんの、現存する能力を見極めたうえで、必要とする対応を、ミーティング時にスタッフと共に考えるようにしている。 利用者さまの情報は、スタッフともども、情報の共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者さまのご家族の気持ちとなり、ご自宅での生活と変わりなくお過ごしいただけるよう、その方の出来ることをお手伝い頂くようにし、必要な存在であると感じていただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設に関わって頂き、ご家族の協力をあおぎながら、スタッフ共々、利用者さまを支えられるように、普段から様々な事柄に関わりを持っていただけるようお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所のお知り合いや、旧友、遠方のご親戚など、大切な存在の方々が訪ねて来られたり、小さなお孫さんも来所されている。 ゆっくり寛いで頂けるような場所を提供している。	昔馴染みの友人・知人がたまに面会に来られるので、丁寧に対応しその面会を支援している。馴染みの場所としては、散歩の途中お墓参りに行くこともある。お孫さんが遊びに来られることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時折、言い合いになったりもしますが、利用者さま同士の関係は良好である。 仲たがいがいた時には、スタッフがさりげなく間に入り仲を取り持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所のさいには、ご家族に困りごとや心配ごとがあれば、遠慮なくいつでも相談や、連絡してもらえよう、お伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	興味・関心チェック表を基に、利用者さまとの会話の中から生活歴や好きなこと、趣味や興味のあることを聞き出せるようにし、ケアに反映させている。	入居時のアセスメントや生活歴を把握し、家族と会話を重ね暮らし方の希望や要望を聞き出している。更に「興味・関心チェック表」を用いて日々の会話・暮らしぶりからも抽出し思いや意向を検討している。本人の意向を介護記録に記入し、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	興味・関心チェック表を基に、ご家族からも利用者さまの詳細な情報や、今までの経過の聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、目視での様子観察や、会話の中から、その日の状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さまの状態を把握したうえで、家族さんも同席のサービス担当者会議を開催し、それを基に介護計画書を作成し、3ヶ月に1度見直しをする。状態の変更等がある場合は、その都度変更を心がけている。	初回の面談・アセスメント・サービス担当者会議を基にケアプランを作成し、サービス内容に基いた支援を行っている。見直しは概ね3ヶ月から6ヶ月であるが変化時は随時見直しを行っている。役所の担当課に資料を出しプランの面談、点検・アドバイスを定期的を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送り、毎夕のミーティングで情報交換を行い情報を共有し、記録を元に状態の変化等の把握、及び必要に応じて介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さまの状態は日々変化するもので、その時に応じた柔軟な対応をし、その日、その時に応じたケアの対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせるように池田市や自治会との連携を図りながら支援を行っている。豊かな自然や歴史ある街を散歩し楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の訪問医以外は、基本ご家族対応して頂いてますが、対応がむづかし場合は臨機応変に対応している。調剤薬局、豊中緑ヶ丘病院との連携も取れている。	入居前のかかりつけ医を希望したり、継続することは利用者、家族の自由である。専門的な受診は家族対応で依頼している。大半の利用者は協力医療機関の医師によって内科は月に2回、歯科は2週間に1回の往診を受け、必要に応じて適切な治療を受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の様子と変化がみられた場合は訪問医の看護師や、法人内施設の看護師に随時相談して指示を仰ぎ、訪問医に連絡が必要な場合は速やかに対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、施設内での情報を提供し、退院時には事前に様子を見に行き、看護サマリーを頂くようにしている。病院とも連携が取れており、地域医療の相談員さんとも対話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、ご家族、施設管理者、ケアマネジャーと話し合いの場を持ち、看取り時にできること、できないことを丁寧に説明し、ご家族の思いもお聞きしたうえで、ターミナルケアの契約の締結を行っている	看取り対応の文書「ターミナルケア利用同意書契約書」は整備しているが入居時には利用者の介護度が低いのでターミナル契約の説明は行えていない。重度化に向けて、本人や家族の思いを聴き取り職員、関係者間で方針を共有し支援する様つとめている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を貼り出している。消防訓練のさい、消防の方から応急手当や、初期対応の教を仰ぐ。救命救急講習を未受講のスタッフに、順次受講してもらう。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時は、町会会の会員さんや、ご近所の方に、協力をお願いしている。北神田町会には、ご家族が了承されている方のみ利用者さまの利用者情報を開示している。消防署と連携をとり、訓練予定である。	今迄は自主訓練であったが18年度から消防署と連携を取り5月と10月に災害避難訓練を実施する予定である。消防計画書を作成し、防火管理者を定め、緊急連絡網は整備されている。今後、防火対策を再整備し、全職員が共有・周知することを期待したい。	運営推進会議を活用して、災害に備えて地域住民との密接な連携体制を確保する為の話し合いをもち、訓練に地域の方々の参加が得られる様な体制作りが求められる。年2回の法定訓練や非常用の備蓄等について防火体制の再点検を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるとの思いから尊敬や敬いの気持ちをもっての対話や対応をスタッフ一同心がけている。	介護者として利用者への接し方、声掛け、言葉使い等、接遇マナーについては配慮している。親しみを込めながらも尊敬の念を持って対応するようにしている。排泄物は他人にわからないように捨てる配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さまおひとりおひとりとの対話を大切にしお話ししやすい環境づくりを心がけ、思いと違うことを無理強いしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活と変わりなくお過ごし頂けるよう、起床、就寝の時間を決めていない。日中のお昼寝も自由にしている。何事も無理強いすることなく、ご希望を確認し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さまのお好みを、普段の対話の中から把握し、朝の更衣時や、お出かけ時にはご自身のお好みものを選んでいただき、時にはアドバイスをさせてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には、先ずえんげ体操を行い、一品ごとにメニューをお伝えし、スタッフの声に合わせ「いただきます！」と発声していただく。下膳や片付けを利用者さまと共に行っている。	業者から配送のクックチルを温め調理・盛り付けをしている。職員は利用者の摂食を見守り声掛けなどして一緒に食べている。月1回、行事等に好物を作ったり、1週間に1回の手作りおやつを作って楽しんでいる。利用者のほとんどが下膳や片付けを自力で行い外食も楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取を1000ccを目標とし、食事摂取量の記録も取っている。水分量、食事摂取量の過不足を把握し、適正量が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの促しの声かけをしている。ご自身で難しい方はスタッフが支援して行っている。月に1度、訪問歯科医の診察を受け、口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さまごとの排泄のパターンを把握し、必要な方には声掛けし、誘導している。 施設入居時、リハパン使用だった利用者さまでパンツ使用に戻られた方もおられる。	排泄パターンの把握により利用者一人ひとりの状態を把握している。さりげなく声掛け誘導することもあるがほとんどの利用者が自立している。自立に向けた支援により入居時より改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善に、水分補給や食事、おやつの内容に気をつけている。 水分は、1日1000ccを目標とし、普段の体操やレクにも便秘が解消に役立つものを取り入れたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介助を基本としているので、スタッフのシフト上、1週間の入浴予定を決めさせてもらっていて、その日に入浴の声掛けをしている。	入浴は着脱時の転倒に気を付けている。脱衣室は広く、浴室は明るく個浴で清潔なので気持ち良く入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる利用者は時間をかけて対応したり職員を替えて対応するなどして無理強いはせず個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅での生活において、お昼寝の習慣があった方には、様子をみながら自室でお昼寝を促したり、夜間もリビングで眠そうのされる方には就寝の声掛けをし促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携を取り、皆さまの薬の管理をしてもらっている。 調剤薬局が1週間、個人別に1日ごとのケースに仕分けして用意してくださり、服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の有する能力を把握したうえで、掃除機かけ、モップかけ、雑巾がけ、洗濯物たたみ、食事の片付け等、その方の出来ることをしてもらっている。 嗜好品は、ご家族が来所のさい、お持ち頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、ご家族と外出されたり、時には外泊されたり、ご家族との関わりを大切にしている。	日常的には近くの散歩を日々楽しんでいる。家族と出かけることも支援している。さつき山へ行ったり、久安寺の紅葉狩りや箕面方面へドライブに行くなど楽しんで出かけられる様に努めている。回転寿司ツアーや市民文化会館の催しに出かけられる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では、基本金銭の所持はしていただいておりますが、外出に機会には、ご家族に依頼し、お金をお預かりするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さまが書かれたはがき、手紙などは一緒に投函している。 利用者さまから、電話の希望があれば、間を取り持ち、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのいい場所に食卓を配置し、窓の外に季節の花を栽培し、居心地のいい空間であるように気をつけている。 トイレの場所が分からない利用者さまのために大きく表示している。	共用空間は落ち着いた雰囲気、天井が高く梁を露出させた趣のあるフロアである。食事をする空間は日当たりが良く窓から季節の移ろいを感じる事が出来、調理中の匂いも五感を刺激して生活感を醸し出している。入口には手作りのひな人形を設置し窓には折り紙を飾り季節感を出す工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓と、リビングのソファの配置に距離をとり、ご自身の好きな場所で寛げるよう工夫している。 居室でお過ごしの方には、食事やおやつ、レクの時には声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご契約のさい、ご家族に利用者さまのお好みの物や、使い慣れたものをお持ちいただくようにお伝えし、施設入所後も安心してお過ごし頂けるような居室作りを、家族と相談しながら行っている。	各部屋にはベッド・チェスト・ハンガーラックが整備されている。夫婦で入居している利用者は1室を夫婦の居間としてテレビやこたつ・仏壇を置き絨毯を敷いて2人で寛げる様にしている。他の1室を夫婦の寝室としてベッド2台を置き2人一緒に休める工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりをつけ、安心、安全にご自分で移動してもらえるようにしている。 トイレや浴室には、目で見て分かりやすいように大きな文字で表示している。		